

その前に集まつてゐる四五人の子供の姿を認めた。何氣なく五六歩過ぎた時、ふと妙な聲が耳に入つた。女の子が役者のやうな聲を出して何か云つてゐる。すると其男の子が又同じやうな聲でそれを受ける。賢吉は思はず足を留めてその方を眺めた。女の子は十一二で、男の子の方はそれより一つか二つ下らしい。今二三人廻りを取卷いてゐるのも大抵同じ位の年ばへである。唐人絵に結つた女の子は頻りと黄色い聲を出して、姿態を作つて男の子に取組もうとする。すると荒い縞の筒袖を着た男の子は、無理に太い強さうな聲をしてそれを拒む。年上だけに女の子の方が遙に器用である。

子供達は賢吉がそこに立つてゐるので、一寸芝居ごつこをやめて怪しそうに彼の方を見たが、直ぐに又平氣になつて跡を續けて行つた。賢吉は初め何か物乞ひの類かとも疑つたが、よく見るとさうではない。服装は餘り綺麗でもないが遊び事にやつてゐるに違ひない。それも見て來た芝居の眞似事では

表情の激しい眼を持つた細面の女で、頸筋から肩の邊へかけてのすつきりした様子が心を惹く。賢吉の顔に温い血潮が上つた。と、女は三三歩近寄りざま白い手を暢べて彼の袖を取らうとした。賢吉は驚いて逃げるやうに飛び退いた。

賢吉は又電車に搖られて淋しい自分の家の方へ歸つて行つた。體が疲れたせんか頭もぼんやりしてしまつた。取留めては何事をも考へやうとなしかつた。只さつき家を出て來た時のやうな、耐へ難い空虚と寂寥の感はどこへやら消えてゐた。

## 途中下車驛

水野仙子

間もなく列車が來たので、満枝は風呂敷包みを持つた手で添一を抱へて、驛夫の開けてくれた三等室に乗り込んだ。

なくて、不斷自分達が喋つてゐることを役者のやうにして云つて見るだけなのである。

賢吉はそれを眺めながら如何にも公園の裏らしい光景だと思つた。大方誰かに連れられて宮戸座の立見にでも行つて、見様見真似にこんな事をやつて見る氣にもなつたのだらう。藝者、花魁、吉原、銘酒屋の娘さん、活動寫眞：花やかな、併し良もすれば人間の堕落を誘ふ色と匂と音樂とには、生れ落ちてから旦暮熟してゐる子供達である。かうして芝居ごつこに夢中になつてゐる最中でも、それ、直ぐ向ふでは闇黒の妓女の誘惑的な聲が恐ろしく響くではないか。

この子供達の小さな胸に潛んでゐる理想の男性とはどんな人であらう。理想の女性とはどんな人であらう。子供達の将来が恐ろしい。賢吉は暗い心持を抱いてそこを去つた。

或家の格子の前に立つてゐた女が賢吉の顔を見て

直行の常とて手頃の席は皆、長の旅らしい人達によつて占領されて居る。網を見れば網にも、淺黄の風呂敷包みや鞆などが一ぱいに揚げられてゐる。足と足の重つた狭い間を、添一の肩を押し乍ら向ふの隅に進むと、其處に居た商人が脇に置いた大荷物を自分の足の下に下したので、満枝は一寸會釋して腰をかけた。初めてはつとして自分の前の並びを見廻し、それから憚るやうに背中合せの方を斜めに見遣つた時、満枝はそのまま外らさうとした眼を据えて人の顔を見た。

「あら、ま……」と一寸自分はほつと赤くなつたやうな氣がした。

「お珍らしい」と男は先刻から見付けて居たらしく、體を斜めにして腕をかけてにこ／＼して居た。

「どちらへ」と男は言つたが、直ぐに、

「白河へお出でしたか」と續けた。

「は、一寸……」お盆なものですから久し振りで父の墓参りに、とは口に出すに胸元で消えた。

「おい／＼蕎餅！」と突然男の後の男が、大きな聲で物賣りを呼んだ。其時丁度上りの列車もはいつて來て、種々な顔がちら／＼と窓を擦つて過ぎる。其方に目を捉られてから、妙にそびれてしまつて、満枝は前の方にばかり當てどもなく目を置いた。

程なく列車は動き出した。添一は母の膝から手を離して窓の傍にじりよる。速力を増した列車は、河原を越えて低く並んだ町を、容赦もなく飛ばして遙にした。

物見遊山とは違ふけれども、兎に角出掛けていることが氣分を引き立てゝ、汽車に乗られると前の晩から喜んで居た添一が、飛び廻つて居るのを窘めながら、満枝は其日晴れやかな顔をして家を出た。いつの間にか三日を三年振りで見た古馴染の町で過して、もの忘れしたやうな、飽きないやうな、氣の抜けたやうな心持ちで、今夫の許へ歸らうとして居る。二三の親戚や知己から送られた菓子折だの、添一が買つた玩具だの、昔のお針の師匠から買つた半

襟だのが、風呂敷包みとなつて膝の上に乗つて居る。顔を出すところで母の話をされるかと思つたけれど、まるで其方には話を邊さない人もあり、一寸出ても大抵一言か二言で止めてしまふ。さうさればされる程まで、満枝はなんとなく身の引けるやうな思ひがした。

「お祖母さんはね、餘所の人になつたんだよ」と添一が得意氣になつて言ふと、「さうけ。餘外のお祖母さんになつたのだけ、添坊はお祖母さんが大好きだったねえ」と白河の年は取つてゐけれども髪の毛などの艶々とした叔母が、お菓子を紙に包んでくれた。

ほんやりこんなことを考へながら、満枝はふとなんとなく後に氣がよりなことがあるやうな氣がした。一寸會釋を交したまゝ外れてしまつて、そのまま同じ室に居ながら知らないふりしてゐるもの異なものとは思ふけれど、改めて體を捻ぢ向けるのも臆効なやうな氣がするし、人も一人間に挟んでは、汽

「お久し振りですなナ」と男は始終泰爾々々として

「なんですか、只今はどちらにお住居ですか？」

「はあの一本松に……もう足掛け三年になりますよ」

「さうですか……それは貴女の……ハ、さうに決つてゐでせうがお幾つです」

「五ツでござります！」

「ふむ、早いもんだなア」と眞實に感心したらし

く、「坊っちゃん、面白かつたですか、白河へ行つて、

え、と顔を覗き込むやうにした。満枝は黙つて

淋しさうな顔をして居た。また暫く話しか切れる。

男の目でよくは解らないけれども、品は兎も角もすべてに流行をされた服装は一通りなんとなく身窄しさを感じさせられる。髪は前髪のつまつた束髪だし、襦袢の襟なども二三年前に流行つた色合だと思ふ。色は昔の通りに白いけれど、小柄なのが樸素な着物に包まれて醜く異端で見える。殊にどことな

きくなつたし、私つてものは此家に取つて有つてもなくともいゝ者、邪魔になるとも用はあるまい、それで先様に私のやうなものでも用があるといふならば、私は喜んで參りませう。と言つて行つた人を、留めることができなかつた自分を責めるのか、操を捨てた母の心を悲しむのか、突きつめて見れば、二度の嫁入りも一度の嫁入りも、何もそこに變りも差もないではないかとも思ふ。

「おツ母さんが其氣なら何いさ！」とばかりで、其外一言も其問題に口を入れなかつた夫を思ふと、また自分等の仕業が、勢ひ母を嫁かしめるやうになつたのではないかと胸が迫つて来る。

かうして満枝はぐち／＼とした態度を取つて居る

うちに、話はさつさと運んで母は去つた。さうして母が居ないで都合のいゝこともあり、また不自由な時もありしたけれど、概して家のなかが寛いだ空氣のうちに、一月経ち二月経ち、すでにもう四月にもなつた。

く生氣のないやうな、ことによつたら婦人病でいもあるかと思はれるやうな顔色を見ると、得意でない今境遇を察ることも出来る。

男はこんなことを考へて居た。満枝の眞實の伯父

で、あとでは父となつた大伴といふ醫師の姿なども思ひ出した。春の低い、何時も紋付の羽織を突き袖で歩く人で、満枝は小さなうちからこに引き取られて居たのだ。

「あのおツ母さんは相變らずお壯健ですか」と突然男はかう聞いた。大柄な體のいゝ顔の愛想のよかつた其人を思ひ出したからだ。

「は……」満枝は少くともさもきした。今も今そのことばかり考へて居たところであつた。母はほん四ヶ月ばかり前に、長年の獨身生活を捨てゝ、或る富豪の後妻となつて行つた。それがどうも満枝には気がひけでならぬ。何故かそれは自分にもわかつて居なかつた。父の墓の前に立つた時も、申譯のないやうなすまない氣がした。添坊も、う大

二つばかりの停車場を越すと、満枝の心は何となく落ちつかなくなつた。家を出る時から其心はあつたのだし、昨夜床の中であれこれと考へた末、途中母の居る町に下車して逢つて行かうといふ心、それがまた次が其驛となるとなんとなんとなし躊躇はれる。決し兼ねるやうである。

「この次が郡山でございましたね」と男に聞いて見た。

「さうです、お降りになるんですか」と満枝の落ちつかない顔を見て、持つて居た新聞を下に置いた。

「え、一寸降りてみようかと思ひまして……母が此節郡山に居るものですから……」

「さうですか、それは……」と男は怪訝な顔をした。

「坊や、お前の大好きな人に會はせてあげようねえ坊は一番誰が好きなんだつけ」と添一の手を取る。決心したやうに襟など搔き合して胸元をしめた。

間もなく町の甍が見える。暫くして汽車は全く歩

みとと  
みを止めた。

「山！」

「岩越線の方は乗替！」

窓の外車室の中が一頃り動搖く中を、

「それちやあ、どうもお世話様になりました」

と満枝は添一を抱へて一禮した。

「や、さよなら、どうぞおツ母さんによろしく」と

男も軽く禮を返した。

車夫の圍みをぬけて街の方に足をうつすと、お客

んなさいまし、寄つていらつしやいまし、手前は何

屋でござります、と番頭や女中が聲をかける。その

うちの軒の低い手近な家に満枝は入つた。

「いらつしやいまし……」

「お疲れさま……とばた／＼草履の音をたてゝ襷

掛けの女中が洋傘と風呂敷込みを取つた。

薄暗いやうな、軒に硝子の風鈴の下つた部屋に導

かれて、手持無沙汰に満枝は坐つた。

「ホ、おとなしうござんすね」と煙草盆やお茶

を持って出た女中に、

「氷でも取つてやつて下さいな」と言つて、満枝は

さてこれから如何しやうと思つた。電話——とも思

ふけれど、田舎に居てそれも扱ひつけないから厭な

氣がする。

「すみませんがねえ、卷紙と封筒を借して下さい

と女中に氣の毒さうに言つて、

「さうしてね、お氣の毒だけれど、誰れか丸木に持

たしてやつて下さい」

「へえ／＼、あの丸木……本家の方でござりますね」と女中は其處に跪んだ。

「父上の墓参に白河へまわり候。今日二本松へ歸る

ところに候へども、添一にお祖母様お目にかかりた

く候故、一寸下車致し候。お都合宜しくば停車場前

の○屋方へお出で下され度願ひあげ候。満枝よりお

きの様」と書いた。母上様と書かうとしたけれども、おきの

様と書いて、またそれを消さうとして、やはりそれ

出した母は怜俐なのか——併し今の境遇も大抵ではあるまいと強いてさう同情する、

ふと三十六だつたか七だつたかと母の年を考へて居るうちに、二人が顔を合した時の心持ちや有様を思つて、あれこれと其時のこと想像して見た。

上から下まで新らしい縮緬づくめ、それはきまつてゐるとしてそれを羨んでは澄まぬ。その美しい着物の中に母の涙が含まれてゐるのだと、何故かさう思つてみる。

「お、添坊！」と言ふか、いや／＼

「満枝」といふか、

す……自分もたゞ黙つて涙ぐむ……こんなことを思つて満枝は恥もそれが眞實であつたかのやうにかすかに涙ぐんだ。

車の音がした。草履の音や販賣やかな挨拶の聲が店

から聞える。

「お待ちかねでござります」といふのでふと耳をた

てた。そのうちに交つて、何か高やかに言つて笑つた聞き覚えのある聲が聞えた。と思つた刹那、今

の今までとは違つた思ひの涙となつて満枝の頬をほ

ろくと傳はつた。

にした。  
女中が出て行つた後、満枝は初めて座蒲團を引きよせて坐つた。  
「お祖母さんはどこに居るの？」と水のコップをつついて居た添一が匙を噛へて顔を見あげた。  
「お祖母さんかい、お祖母さんは今こゝに来るの」と言つたものゝ、果して慥に來るかどうかはわからぬ。丸木といへば町でも一二の富豪ではあるけれども、永年床の中でばかり暮したヒスクリー症の家付きの妻が死んでから、間もなく迎へられた後家。主人はまだ采配を振つてゐるけれども、もう餘程の老人で、しかも若主人なども賛成でもなかつた縁談なのだから、後家といつてもまるで妾同様な境遇なのだ。金はあっても樂は出来ない。召使ひのものなどにも勢力がないだらう。と思ふと母の身が氣の毒に思はれ、女の行末といふものが哀れ深く考へやられる。肩書きのない醫者のことへ、思はしくない夫のこの頃の事業、今の土地にも永くは居られないやうな氣がするけれど、何地に行つたとてさう自分の身の浮ぶ潮が來やうとも思はれない。そこを抜け

191

# 記者通信

毎月一回十三日發行 ▲外に定期増刊 年四回發行 定價銀

同一

△「石竹號」は漸く出來上つた。例に由つて、記者は今若い人達の文章の精華を萃め得たと信ずる。記者は今更ながら若い人達の文藝に熱心で且つ忠實であるのを喜ばざるを得ない。専くともこの中には、立派な文學として、大方に推奨しても恥しくないものがかなりにあると思ふ。

△今回小説は誌友の指名選抜を廢して、これを廣く世に募ることにした。其結果は紙上に公にした通りである。其内容如何、その結果如何は、一に諸君の批判に任せたい。

△叙述文にもすぐれた作が多かつた。其技倅に於て優に文壇の人たるに恥ぢないやうな筆を持つてゐるものも少くなかった。記者は諸君が漸次向上し進歩しつあるを祝福する。

△本誌に掲載したロシア現代の作家ザイツエフの「姉」は一種清新な着想と技巧とを有した短篇で、ロシア最近の文壇を窺ふ鍵として、最も讀むに堪へたるものであると思ふ。特に諸君の精讀を得たい。

文定		章價		冊		前		金		郵稅	
●	一冊(本文紙版二百四十頁)	●	定價金貳拾錢	●	郵稅	●	郵稅	●	合	●	計
●	四册(三ヶ月分)	●	七拾五錢	●	八錢	●	八拾三錢	●	三錢	●	三錢
●	八册(半年分)	●	一百五十五錢	●	十六錢	●	一百六十一錢	●	三錢	●	三錢
●	十六册(一年分)	●	三百八十九錢	●	三十二錢	●	三十二錢	●	十二錢	●	十二錢
●	三十册(二年分)	●	五百三十五錢	●	五十五錢	●	五十五錢	●	二十錢	●	二十錢
●	三十三册(三年分)	●	六百三十二錢	●	六十二錢	●	六十二錢	●	二十一錢	●	二十一錢
●	三十九册(四年分)	●	七百四十五錢	●	七十五錢	●	七十五錢	●	二十二錢	●	二十二錢
●	四十五册(五年分)	●	八百六十一錢	●	八十一錢	●	八十一錢	●	二十三錢	●	二十三錢
●	五十一册(六年分)	●	九百七十七錢	●	九十二錢	●	九十二錢	●	二十四錢	●	二十四錢
●	五十五册(七年分)	●	一千零九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	二十五錢	●	二十五錢
●	五十九册(八年分)	●	一千一百零九錢	●	一百一十一錢	●	一百一十一錢	●	二十六錢	●	二十六錢
●	六十三册(九年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	二十七錢	●	二十七錢
●	六十七册(十年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	二十八錢	●	二十八錢
●	七十一册(十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	二十九錢	●	二十九錢
●	七十五册(十二年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十錢	●	三十錢
●	七十九册(十三年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十一錢	●	三十一錢
●	八十三册(十四年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十二錢	●	三十二錢
●	八十七册(十五年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十三錢	●	三十三錢
●	九十一册(十六年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十四錢	●	三十四錢
●	九十五册(十七年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十五錢	●	三十五錢
●	九十九册(十八年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十六錢	●	三十六錢
●	一百零三册(十九年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十七錢	●	三十七錢
●	一百零七册(二十年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十八錢	●	三十八錢
●	一百一十一册(二十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	三十九錢	●	三十九錢
●	一百一十五册(二十二年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十錢	●	四十錢
●	一百一十九册(二十三年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十一錢	●	四十一錢
●	一百二十三册(二十四年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十二錢	●	四十二錢
●	一百二十七册(二十五年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十三錢	●	四十三錢
●	一百三十一册(二十六年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十四錢	●	四十四錢
●	一百三十五册(二十七年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十五錢	●	四十五錢
●	一百三十九册(二十八年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十六錢	●	四十六錢
●	一百四十三册(二九年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十七錢	●	四十七錢
●	一百四十七册(三十年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十八錢	●	四十八錢
●	一百五十册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	四十九錢	●	四十九錢
●	一百五十四册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十錢	●	五十錢
●	一百五十八册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十一錢	●	五十一錢
●	一百六十二册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十二錢	●	五十二錢
●	一百六十六册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十三錢	●	五十三錢
●	一百七十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十四錢	●	五十四錢
●	一百七十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十五錢	●	五十五錢
●	一百七十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十六錢	●	五十六錢
●	一百八十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十七錢	●	五十七錢
●	一百八十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十八錢	●	五十八錢
●	一百九十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	五十九錢	●	五十九錢
●	一百九十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十錢	●	六十錢
●	一百九十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十一錢	●	六十一錢
●	二百零三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十二錢	●	六十二錢
●	二百零七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十三錢	●	六十三錢
●	二百一十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十四錢	●	六十四錢
●	二百一十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十五錢	●	六十五錢
●	二百一十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十六錢	●	六十六錢
●	二百二十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十七錢	●	六十七錢
●	二百二十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十八錢	●	六十八錢
●	二百三十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	六十九錢	●	六十九錢
●	二百三十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十錢	●	七十錢
●	二百三十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十一錢	●	七十一錢
●	二百四十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十二錢	●	七十二錢
●	二百四十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十三錢	●	七十三錢
●	二百五十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十四錢	●	七十四錢
●	二百五十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十五錢	●	七十五錢
●	二百五十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十六錢	●	七十六錢
●	二百六十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十七錢	●	七十七錢
●	二百六十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十八錢	●	七十八錢
●	二百七十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	七十九錢	●	七十九錢
●	二百七十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十錢	●	八十錢
●	二百七十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十一錢	●	八十一錢
●	二百八十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十二錢	●	八十二錢
●	二百八十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十三錢	●	八十三錢
●	二百九十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十四錢	●	八十四錢
●	二百九十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十五錢	●	八十五錢
●	二百九十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十六錢	●	八十六錢
●	三百〇三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十七錢	●	八十七錢
●	三百〇七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十八錢	●	八十八錢
●	三百一十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	八十九錢	●	八十九錢
●	三百一十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十錢	●	九十錢
●	三百一十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十一錢	●	九十一錢
●	三百二十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十二錢	●	九十二錢
●	三百二十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十三錢	●	九十三錢
●	三百三十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十四錢	●	九十四錢
●	三百三十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十五錢	●	九十五錢
●	三百三十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十六錢	●	九十六錢
●	三百四十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十七錢	●	九十七錢
●	三百四十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十八錢	●	九十八錢
●	三百五十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	九十九錢	●	九十九錢
●	三百五十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百錢	●	一百錢
●	三百五十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一錢	●	一百一錢
●	三百六十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百二錢	●	一百二錢
●	三百六十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百三錢	●	一百三錢
●	三百七十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百四錢	●	一百四錢
●	三百七十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百五錢	●	一百五錢
●	三百七十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百六錢	●	一百六錢
●	三百八十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百七錢	●	一百七錢
●	三百八十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百八錢	●	一百八錢
●	三百九十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百九錢	●	一百九錢
●	三百九十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百十錢	●	一百十錢
●	三百九十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一錢	●	一百一錢
●	四百〇三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百二錢	●	一百二錢
●	四百〇七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百三錢	●	一百三錢
●	四百一十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百四錢	●	一百四錢
●	四百一十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百五錢	●	一百五錢
●	四百一十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百六錢	●	一百六錢
●	四百二十三册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百七錢	●	一百七錢
●	四百二十七册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百八錢	●	一百八錢
●	四百三十一册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百九錢	●	一百九錢
●	四百三十五册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢	●	一百一十二錢	●	一百十錢	●	一百十錢
●	四百三十九册(三十一年分)	●	一千一百九十二錢	●	一百一十二錢						